

極私的プロ野球ドラフト会議2018

ルトの順で引いていくと……3番目に引いたソフトバンクが見事に交渉権を獲得！ 興奮冷めやらぬ担当者に獲得の感想を求めてマイクが向けられる。

「桑田真澄投手（元巨人ほか）が好きで、球のキレが似ていると感じていました。夏の甲子園での活躍で馬力やスタミナもあることがわかったので、是が非でも獲得したい投手でした。プロの世界で勝てる投手だと信じています」と最大限の賛辞。12球団随一の投手陣がさらに強化された瞬間だった。

興奮冷めやらぬなか、今度は根尾の抽選の準備が進められる。阪神、ロッテ、中日、日本ハムの順で抽選箱に手を伸ばすと……2番目に引いたロッテに軍配が上がった。二刀流も視野に入るスーパーユーティリティープレイヤーだけに、やはり気になるのは起用法。

「投手も魅力ですが、まずは遊撃手として考えています。売出し中の安田尚憲選手とともにマリンの内野を盛り上げてほしいです」

こうして球団が決まった2人の高校生。夏の甲子園以降のフィーバーを見れば、確かに人気を二分

していた。現実には根尾に4球団、吉田は2回目の1位入札での指名だったが、非常にリアリティーを感じる流れだった。

敵をあざむく一本釣り

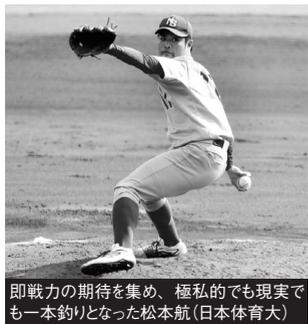
注目度は競合した2人に譲るものの、実は単独指名にこそ球団の思惑が色濃く映っていることが多い。実際のドラフト会議はもうろんのこと、極私的ドラフト会議でもはつきりと見ることができた。

極私的ドラフト会議で単独指名を成功させたのは、藤原のオリックス、松本のDeNA、甲斐野の西武、小園の広島、4球団。いずれも球団の弱点をストロングポイントに変える選手たちばかりだ。とりわけ広島は現実のドラフト

でも、小園の交渉権を獲得（オリックス、ソフトバンク、DeNAと競合）。4分の1の抽選をくぐり抜けたのは、極私的ドラフト会議での広島担当の想いが伝わったし、考えられない。

単独指名の大家である西武の代表いわく「今季の躍進を支えた大塚剛隆勢の後輩たちも魅力的だった」が、ブルベンの強化を目指して甲斐野を指名。実際の指名は松本だったが、即戦力投手という枠組みは外していない。地に足をつけて実を取りにいくなスタイルは、脈々と受け継がれる根本陸夫イズムのたまものだろう。

また、DeNAは「足りない右の先発を求め」といった理由で松本（実際は上茶谷）、オリックス



即戦力の期待を集め、極私的でも現実でも一本釣りとなった松本航（日本体育大）



ほぼ初対面ながらも、ドラフト愛が伝わり、スムーズな意見交換が行われた

スは「若手外野手の補強」を目指して藤原（実際は小園）太田（高天理高）をそれぞれ指名。DeNAに関しては松本と上茶谷は即戦力右腕という共通点がある。例年上位指名は大学生・社会人で固めているオリックスだが、今年は極私的ドラフト会議でも現実でも「高校生野手」が1位。大き過ぎる枠組みかもしれないが、通例をぶち壊すことを予想し、一致したことは価値があることだ。ピタリ賞とはならずとも、いずれも「さすが！」と唸らされる指名だった。

2位以降は驚き満点

今回は6位まで指名可能だった極私的ドラフト会議。1位指名はそこそこに、2位以降の気になる選手にも触れていきたい。

まずは楽天の2位・太田光（大阪商業大）。これがなんと実際のドラフトとのピタリ賞である。35歳のベテラン・嶋基宏からスタメンマスクを奪う選手が今年も現れなかった楽天にとって、太田はくすぶっている若手・中堅どころに危機感を与えつつ、そのまま正捕手に据えることもできる一石二鳥